



前回の特集「食があぶない」に対して市民192人から264件の自由意見をいただきました。代表的なものをご紹介します。

(1) 宇都宮市の食を守るためには、どうしたらよいと思いますか。(複数回答)

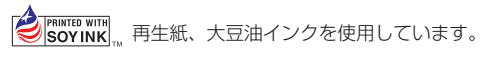
- 宇都宮産の農産物を優先的に購入する。(146人)
- 宇都宮産の農産物の安全性や安心感を高める。(142人)
- 宇都宮産の農産物をどこでも買えるようにする。(139人)
- 「食」と「農」の大切さについて意見を深める。(135人)
- 自給率の高い「米」をもっと多く消費する。(120人)

(2) 主な自由意見

- 宇都宮産に限られた店でしか買えないため、どこでも買えるようにすべき。手軽に買える便利さから関心も深まるのでは。(石井町 20代)
- 宇都宮産は、直売所にはあるがスーパーには少ないように思う。栃木産は多くあるので、宇都宮産をもっと多くしてほしい。(滝谷町 70代)
- 宇都宮産にこだわると品目や数量が制限されるのでは。近県と協力した広い地域での取り組みをしても良いのでは。(雀の宮2丁目 30代)
- 消費者は価格面だけでなく、安全安心の面からも国内産・地元産を購入する意識をもつべき。生産者は安全安心で安い農産物供給のためには、自分の農地を他人に貸すことへ協力する意識作りも必要。(戸祭台 50代)
- 定年退職者や農業初心者が、農業のプロから耕作の楽しさを教わり、喜びを体験する機会。(石那田町 60代)
- 宇都宮の農産物の生産状況が良く分かった。農家に感謝したい。(雀の宮4丁目 70代)
- 高齢化の進展に伴い、若者や農業をやってみたい人が就農しやすくなる仕組みづくりが必要。行政が農地を借り上げて安く貸すとか、会社組織にして農業をやってみたい人を雇って働いてもらう。(下岡本町 60代)
- 子どもが生まれ、食の安全に関心を持つようになった。輸入食材への不安から外食も減ったが、レストランなどでも産地表示があれば良い。(30代)
- 農産物の形などにこだわらず、安全で、生産者がはっきりしていれば消費者にとって安心だ。(旭2丁目 40代)

広報うつのみや特集号は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回発行します。また、毎月1日発行の通常号の次回(12月号)は、12月1日配布です。

広報うつのみや 特集号はホームページでも見られます。
<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>



前回の特集「食があぶない」の概要



日本の食の現状

日本の食料自給率は40%。今後、人口増加や温暖化などの影響により、食料の供給が不安定になると、主要農作物を輸入に頼る日本は、その影響を大きく受ける。食料増産にも限界があり、このままでは食料不足に陥る可能性がある。国は、食料が不足した場合に備えて備蓄を行っているが、国内生産だけでは、食事内容は非常に質素なものとならざるを得ない。また、農業者の半数が65歳以上であり、このまま農業を営む人が減り、農産物の生産量が減ると、日本の食料事情は危機的な状況となってしまう。

食を守る取り組み

本市では、全国でも有数の農産地である特長を生かし、食料自給率の向上のために、農業を魅力あるものとして、地元産の農産物を地元で消費する地産地消を推進したりしている。この地産地消の取り組みは、同時に環境問題への取り組みにもなる。今後、生産者が、より環境と調和した農業を追求し、消費者が、環境問題を意識しながら地元の農産物を選んでいくことで、持続的な営農活動が支えられていこう。そのために今、一人ひとりができることから始めていこう。それが、私たちの子孫の命の源である食をしっかり守っていくことにつながるのだ。



料金受取人払

郵便はがき

3 2 0 8 7 4 0

宇都宮中央局
承認
3017

差出有効期間
平成22年7月
14日まで
【切手不要】

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所
年齢	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。